



文庫 8
C 322

洋学文庫
文庫 8
C 322



41- 8018





和蘭藥物製劑小引

予少時多病ニシテ數醫ノ手ヲ經レ其効ナク其起日
 ノ無ラシト患フ嘗聞支那治療ノ外ニ起死回生ノ
 手段アルコトハ蘭醫ニ如クナリト是レ人ノ知ル所ナレ
 氏未タ其便ヲ得ズ或人勸テ曰近時鵠齋杉田
 先生大ニ蘭學ノ業ヲ開キ其門治ヲ託スル者
 多シ如何ゾ區々トシテ河ノ清ルヲ待ヤト余父母
 是レヲ聞テ大ニ喜速ニ鵠齋先生ニ踵リテ治ヲ
 乞フ遂ニ全ク愈ルコトヲ得タリ嗚呼奇哉和蘭
 醫方余亦不肖ナリトイヘ氏頗濟世ノ志アリ願
 ハ門下ニ立テ其術ヲ學ハシコトヲ於是先生ノ令嗣
 紫石先生ヲ叩問シ深ク交誼ヲ辱ス益其奧
 妙ヲ究メンコトヲ願フ先生其切ナル感シテ因テ磐
 水大槻先生榛齋宇田川先生ニ謁セシム是レヨ
 リ四先生ノ間ニ往來スルコト多年畧々西醫ノ説
 ヲ與リ聞コトヲ得タリ一日四先生燕居ノ時齊ク
 嘆テ曰方今西洋ノ醫學ヲ唱フル人乏シカラス
 其精詳ヲ賞スル人モ亦多シト然レ彼邦用ル
 所ノ藥物我邦所在往々アリトイヘ氏是レヲ知
 ル人ノ少ク況ニヤ是ヲ嚮クアラヤ日常治療ノ
 際其用ヲ給セサルコト是亦恨ヘキノ甚キガリ汝モ
 シ濟世ニ志アラバ其藥品金石草木ニ至ルマテ
 西洋ノ法ニ倣テ是ヲ製造シ吾儕不時ノ需ニ
 應スルコトアラハ世ニ功アルコト豈少カラヤ余深ク其
 命ヲ欽服シテ其教ニ隨ヒ和蘭藥舖ヲ開キ同
 社ノ人ニ領テ其用ニ供スルト云爾

國朝文化十年癸酉閏十一月十日
 西洋和蘭曆千八百十四年正月元日

蛙步亭記